

第4回狛江市基本計画策定分科会（第1分科会）会議録

- 1 日 時 令和6年7月26日（金）午後7時00分～午後8時22分
- 2 場 所 第一委員会室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁 副委員長 五十嵐 太一
副委員長 強瀬 理一 副委員長 酒井 淳子
委 員 大村 充男 委 員 高橋 良典
委 員 片岡 晋一
事務局 杉田政策室長 中村企画調整担当主査
大久保企画調整担当主事
- 4 欠席者 委 員 繁平 光伯 委 員 吉野 琢也
- 5 議 題 1. 【まちの姿3】施策体系、現状と課題及び施策の方向性について

6 会議概要

【委員長】

議題1 【まちの姿3】施策体系、現状と課題及び施策の方向性について

－事務局より資料の説明－

【委員長】

施策1について説明があったため、3-①から順番に検討していく。最後に気づいたことがあれば、全体を通して再度意見をいただきたい。まず、3-①魅力の創出・向上・発信についてはいかがか。

【委員】

現状と課題の①、最後の文について、イベント間のつながりの方を強調したいので、「イベント間のつながり」と「情報発信」を入れ替えたほうが良い。

また、②の2行目にある多摩川の記述について、多摩川という共有資源を活用して、他自治体と連携を図り交流しながら、市の活性化に向け、取組を進めています。特に花火大会等の規模が大きいイベントの実施については、とするのはどうか。花火大会にこだわるわけではないが、具体的にイメージしやすいと思う。

【事務局】

細かな表現については事業担当課とも調整を行いながら、そのようなニュアンスを入れていきたい。

【委員長】

活性化のために行うということがわかるような表記になるように調整をお願いします。方向性1の1つ目、「市民、関係団体と一体となって」とあるが、関係団体とは市外も含めるのか。外から見た魅力の発掘という話があったが、今の表記だと市内の団体のみという印象

を受けるため、市外の団体も含むようなニュアンスがあった方がよいと思う。

【委員】

市の取組として、外部の知見者の方を読んで、取り組んでいる事業はあるのか。

【事務局】

インスタグラムを活用した事業で、調布市と連携して実施した事業がある。常に行っている事業ではないが、外部人材を活用したもの。

【委員】

SNS 等での発信については、ノウハウの塊だと思うので、外部人材を賢く活用したほうが良いと思う。そういった方は狛江市の事は詳しく知らないと思うので、内容のすり合わせ等で立案を仕上げていくと良いのではないか。

【委員長】

地方の自治体では、大学生のフォーラムのような形で、その地域の問題点を見つけて、政策提言を行うところもある。市の職員が大学生の質問に答えながら、一緒に提言を作っていく。お金かけなくてもできる取組もあるので、参考までに。

【事務局】

市内に都立高校が1校あるが、総合的な学習の時間に、市職員が高校に出向き、市の施策について、各分野における課題等の説明を行い、高校生側で課題を設定した上で、フィールドワーク等を行い、これからの取組に対する政策提案を行うという授業があったが、内容としては、SNSの活用について関する提言も多かった。在住市民ではない生徒が多く、ある意味、外から見た狛江について、意見をもらったところであるとも解釈できる。市民アンケートの意見でもあるように、市内の店舗お店が少ないという感覚があるようで、もっと魅力的な店舗があれば、定住してもらえ、外からも人が来るのではないか、という提言があった。そのような取組を近隣の大学にも広げてもよいかもしれない。

【委員長】

高校でやっているところもあるが、大学生だとより実現可能な政策提言につながるのではないかと思う。

【委員】

川が狛江市の大きな魅力だと思う。川があるだけでも恵まれた要素である。いかだレースや花火大会等の内容を充実させたり、新しいイベントを考えたりしていければ良いのではないか。

【委員】

イベントの話、長く実施しているイベントについては、形骸化している印象があり、多摩川を利用した新しいイベントについても考えていかないといけないな、と思っている。駅前広場等の整備も進み、イベントがやりやすい環境が整っているので、そういったものを活用して、市の魅力を伝えられると良いのではないか。

【委員】

目指すまちの姿について、市外の方に関する記載が一番最後にやっと出てくる。市外の方は魅力を受け取るだけのような印象になっているので、文章の最初の方でも市外の方との連携がわかるとよいのではないか。例えば賑わいや市民同士の交流が創出され、とあるが市民同士の交流に限らず、市外の方も含めた交流のニュアンスを入れてはどうか。

【委員長】

次に、3-②市民参加・市民協働地域コミュニティ・都市間交流の推進についてはどうか。テーマ型コミュニティ等の等は何か想定しているのか。

【事務局】

テーマ型コミュニティ以外にも集まりがあるという意味で等を付けた。

【委員長】

コミュニティを上げるのに、現在では電子型コミュニティという手段もある。町内会を見える化するという議題の際に、電子化の話があったが、電子化コミュニティとして記載しても良いのではないか。最近はSNS等を活用した電子型コミュニティでつながって、その後、実際のコミュニティで仲良くなる対面するというのも多いようだ。大学生では、入学前にコミュニティで知り合って集まって、入学した後に、対面するというのもあると聞く。

【委員】

民間企業でも、入社前に内定者同士で情報共有ができるようSNSを活用した交流の場が会社側で用意されていて、その後イベント等により内定者同士が実際に合う機会を設けている企業もあるようだ。

若者の間では、SNSを入口とする知り合い方に違和感を感じることはないようだ。コミュニティ同士の繋がりも必要であるため、若い方が入ってくれないという課題に対しては、そういう方法も有効かもしれない。

【委員】

幅広い世代が交流、とあるが、実際の事業を考えると幅広い世代同士の交流は難しいのでは無いかと思うので、小学生同士、中学生同士等の世代で分けていくという手法もある。例えば、林間学校等で交流できれば、児童や生徒の記憶に残るイベントになり、新しい世界が広がるのではないか。デジタルと絡めるなら、会う前から交流しておく等も考えられる。

【委員】

狛江市として、海外の都市との友好関係はあるのか。

【事務局】

友好都市関係を結んだ実績は海外にはない。

【委員長】

幅広い世代が交流できる、というのはきれいに聞こえるが、実現可能性の問題ということもあるので、まず、同世代の交流からはじめて、段階的に幅広い世代での交流になるようなニュアンスが良いと思う。子どもが参加すれば、親も付いてくる、ということもある。

【委員】

町会・自治会の加入率が伸び悩んでいるが、隣の人の顔もわからないような人も多い状況である。避難所運営協議会等も町会を中心にやっており、大変重要な役割を担っている。ある程度加入を強制できないかと思うくらいである。隣の人の顔がわからない、情報の伝達方法も困難である。

【委員長】

戦時中においては、国民統制のための隣組制度という歴史があったようだ。現在では、町会・自治会に対して行政は一步引いた立場で取り組んでいるが、全く手を引くということではいけない。

【委員】

年1回広報こまえて、町会・自治会に加入しましょう、という記事は出ているが、なかなか加入にはつながっていない現状である。

【委員】

先程、電子型コミュニティの話があったが、電子型コミュニティを通じて町会の活動も知ってもらえるとよいのではと思う。電子型コミュニティを地縁型コミュニティの入口として、参加のハードルを低くするために SNS を活用するという事も考えられるのでないか。

【委員長】

知り合いがいがないため、加入しづらいということも考えられるので、そのように繋がれると良いかもしれない。

【委員】

地域地区センター利用料の減免等のインセンティブがあると、利用しやすいのでは。

【委員】

方向性の中に電子化に関する記載がないため、入れた方がよいのではないか。

【委員長】

次に、3-③商工業の振興についてはいかがか。

【委員】

外国人創業者をあえて誘致する、というのも1つの手法である。港区や渋谷区等では行われているようだ。

【委員】

前期の計画では方向性が4つあるが、そのうち消費生活の項目が無くなっているがその意図は何か。

【事務局】

言葉としては入れていないが、まちの姿2の防犯分野にも近い側面があり、他の方向性と方向性が異なるため、今回は3つに絞った案としている。

【委員長】

経営支援とあるが、商店街や店舗側もどのように努力すればよいかわからないということもあるのではないか。現状としては専門家で相談等を受けているのか。

【委員】

商工会では、中小企業診断士による経営相談を行っている。

【委員長】

商店街全体の戦略として考える視点も必要。例えば温泉地の活性化で、1つの温泉旅館だけががんばるのではなく、温泉地全体で取り組んでいる例もある。商店街全体でどのように取り組んでいくかを考えること等、お金を出すだけでない支援も必要かと思う。

物はどこでも買える時代なので、アフターサービスが良い等、あえて商店街で物を買うことのメリットが必要ではないか。

【委員】

今はネットで何でも購入できる上に翌日に届くので、物を販売するという事が難しくなっている。商店街にあるレモンケーキ屋では、レモンケーキしか販売していないが、商品自体の魅力が強く、毎回長蛇の列ができています。商店街に補助するという視点もあるが、それとは別に、創業支援以外で個々の店舗に対する支援があっても良いと思う。

【委員】

商店街としては、景観やライティングによって魅力を上げていくような取組になるのではないか。

【委員長】

最近、キッザニアの商店街版のような取組として、子ども達が商店街で買物をして商店街活性化を図る事業を行っているところもある。

【委員】

商店街でハロウィンイベントを行ったことがある。個々の店舗を知ってもらうために、引換券とエコバックを買ってもらい、店舗を周ってもらおうという取組だったが、非常に盛り上がった。

【委員長】

次に、3-④都市農業の振興についてはいかがか。方向性1で狛江市ブランド農作物の魅力の発信とあるが、方向性3で農業後継者の新しい担い手を育成するために、農業の魅力を伝えるということが必要だと感じる。魅力を伝えて新しい担い手を呼び込むという視点は入れられないか。京野菜は儲かるという噂を聞いたことがあるが、そういったことは魅力にならないだろうか。

【事務局】

今回欠席の委員からの意見として、高付加価値の野菜の提供についての意見があった。内容としては、狛江のGAP野菜規格に合わせて作っているものを日本GAPの規格に合わせてもらえないかという意見である。具体的な表現となってしまうため、直接計画に反映するのは難

しいが、高付加価値の野菜の生産によって経営の安定化等にはつながるため、反映できないか事業担当課とも調整してみたい。

【委員】

高付加価値には、もともと単価の高い野菜を作るか、又は「狛江ブランド」という価値をつけることで平均価格よりも高く販売することの2パターンが考えられる。それを市としてどのようにバックアップしていくのか、というのは難しい問題もある。

【委員長】

地域の特徴を出せると良いのだが、群馬県の大泉町ではブラジル人住民が多く、ブラジル野菜も生産している。狛江の野菜といえはなんですか。

【事務局】

枝豆が代表的である。

【委員】

昔は無人販売等で、枝豆が販売されているのを見かけたが最近は見ないので、減ってきているのだろうか。

【事務局】

枝豆はとれる時期が限られ、また、人気もあるため、無人販売所等ではすぐに売り切れているように感じる。

【委員】

枝豆業界の中で、狛江の枝豆の評価はどうか。

【委員】

土壌が枝豆に合っていて、おいしいという評判ではある。狛江の農業の特色としては、少量多品種というのがあることから、時期をずらして収穫量を増やしている状況にあるので、収穫量がたくさんとれるようなものは少し難しい。深谷はネギ、のようにイメージができるようなブランド化されたものがあれば良いのだが、枝豆の次はこれ、と言えるほどの農産物はなかなかない状況である。

【委員】

市内で生産された安全な野菜を使っている、ということのを売りにするような飲食店があれば、魅力的なのではないか。

【委員】

市民農園や体験農園で収穫したものを販売することはできるのか。

【委員】

市民農園は割安で貸出しており、収穫したものは販売してはいけないという決まりになっており、あくまで自分たちで消費することを想定してる。

【委員】

市民農園にすると固定資産税の免除があるのか。

【委員】

所有者に対しては、固定資産税を免除している。市民農園も農地扱いとなるので、農地の保全になっている。

【委員】

市民農園となるのは、基本は生産緑地なのか。

【委員】

基本は宅地化農地を対象としたものだったが、法改正により、生産緑地でも市民農園とすることができるようになった。そのため所有者自身が耕作することが困難になった際に、市民農園として貸し出すことで、農地として残すことができる。

【委員長】

例えば、釣りで釣った魚をさばいてくれる飲食店があるように、市民農園で作ったものを使って料理してくれるお店がある等、掛け合わせビジネスのように、市民農園と何かにつなげられるような取組があると良いのではないかと。具体的に記載する必要はないが、そのような広がりも検討してみてはどうか。

全体を通して何かあるか。

【委員】

現状と課題の項目と施策の方向性は、順番に対応関係があるのか。

【事務局】

方向性の内容としては、必ずしも現状と課題と1対1の関係ではなく、入り組んでいる部分もある。

【委員】

3-③商工業の振興について、現状と課題と方向性が3つずつなので、順番を合わせてはどうか。

【事務局】

方向性の順番に合わせて修正する。

【委員】

工業についての記載はないのか。

【事務局】

方向性としては、中小企業への経営支援に含まれる内容となるが、工業単体での記載はないところである。

【委員長】

工業についても記載できればと思うので、検討いただきたい。

議題 6 その他

【事務局】

今回検討いただいた内容を反映し、8月19日に開催する第5回分科会にて再度議論いた

だきたい。9月以降の会議日程について、改めて調整させていただきたい。

【委員長】

その他特に意見等なければ、第4回狛江市基本計画策定分科会を終了とする。